

河北春秋

ユニークな組み合わせだと思った。先月開業した羽田空港の新国際線ターミナルビル。旅行者以外の人でも楽しめる仕掛けの一つとして、カフェを併設したプラネタリウムが登場した。満天の星を眺めながら飲食ができるそうだ▼プラネタリウムは1920年代、ドイツで発明された。投影機は光学式、デジタル式、両方を組み合わせたハイブリッド式に分けられ、ドームの天井に星空をリアルに映し出す。CGを駆使した番組を上映する施設も

▼1億個を超す星を投影できる場所があれば、「双眼鏡でプラネタリウムの星空をのぞいて」とPRするところもある。双眼鏡を使うと、星団や星雲の姿がはっきり見えてくると聞く▼米テキサス大天文学科教授の小松英一郎さん（36）は先日、「宇宙の始まり」を解き明かす研究が評価され、基礎物理学で大きな業績を挙げた若手研究者に贈られる「西宮湯川記念賞」に選ばれた。神戸新聞が紹介していた

▼この賞はノーベル賞受賞の湯川秀樹博士を記念し兵庫県西宮市が創設。同県出身の小松さんは小学生のときからプラネタリウムに通い、宇宙への興味を膨らませて東北大で学んだ▼研究者を志すとはいかないまでも、多様化するプラネタリウムが多くの子どもたちの宇宙への夢をはぐくむ場所になればうれしい。

2010年11月29日月曜日